

平成 21 年 9 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 21 年 第 8 回講話

おはようございます。8月は皆さんどのようにお過ごしになりましたか。

近づく新型インフルエンザ本番

最初に新型インフルエンザの話を少し致します。先週、中斎塾東京フォーラムに大野参与が見えまして、最近の事例を話してくれました。内容は、インドネシアで豚が 120 頭処分されました。その豚に豚新型インフルエンザをうつしたのは人間だそうです。更にその豚を調べると、鳥新型インフルエンザのウィルスがあったそうです。豚の体内で豚新型インフルエンザと鳥新型インフルエンザが混ざり合っていた。又、新しいものが始まりだしたと思います。それからエジプトで豚の新型インフルエンザで 2 人の重傷者が出ましたが、調べたら、新しい馬のインフルエンザにもかかっていたということです。

ここまでは事実の発表です。アメリカで最近起きていることを（推測だとおっしゃっていましたが）ご紹介します。

「アメリカでは今、タミフルをあまり使わないようにし始めているらしい。ワクチンも 1 回接種で十分間に合うということで、あまり使わないようにしている。その推測の中身は、そろそろ本番の鳥新型インフルエンザが近づいているのではないか。そうすると、タミフルもワクチンも必要だから、そのための準備に入ったのではないかと思う。」

そう、大野さんは話しておられました。

豚の新型インフルエンザが今、日本で非常に流行していますが、あまり人が死にません。マスコミが騒ぐけれども、死ぬ人の数がまるっきり違います。10 人 20 人の単位だったら、あまり政府として大騒ぎする内容ではありません。ただ、鳥の新型インフルエンザの場合は、64 万人が死ぬであろうと発表されています。スペイン風邪を参考にして 64 万人という数字をはじき出したわけですが、その時点でもオーストラリアのロウイー研究所の発表では、日本人は 240 万人死ぬだろうという数字になっています。

現在の日本の状態は、新型インフルエンザはたいしたことはない、死なないという感覚が広がっています。もう一つ、マスクに関して、どんなマスクでも良いというような誤っ

た常識が日本国中に広がっています。これが怖い。鳥の新型インフルエンザが始まった時には、ガーゼのマスクではウィルスが自由自在に通過しますから、あっという間に広がると思います。死者の数は、ゼロが一つ増えるだろうと思います。1000万や2000万人は死ぬであろうというように、最近是有識者の話も少しずつ変わってきています。凄まじい死に方をするだろうと思います。

ちなみにマスクで怖いことは、大野参与の話では、マスクを作るメーカー側が大量生産をするものだから、マスクの原材料が無くなってしまったそうです。したがって、巷に売られているマスクも、抗ウィルスマスクであれば高くても買っておいの方が良いと言っておりました。

一番無難なのは生活習慣です。家に帰ったら、入る前に手洗いとうがいをして、ウィルスを叩き落とす習慣が身につけばかなり良いと思います。以前から申し上げていますが、今のうちに準備をしておくとういと思っています。それとスポーツドリンクは絶対に必要だと思っています。

恒例の質問

恒例の質問を致します。

昨日一日、嘘をつかなかった方、どれくらいおられますか？

(・・・沢山手が挙がる)

昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方は手を挙げて下さい。

(・・・沢山手が挙がる)

昨日一日、良い日だったなと思う方は手を挙げて下さい。

若干、手の挙がらない方がいらっしやいました。

今日の論語

今回は素読をして戴いた論語を、民主党と自民党をからめてご説明いたします。本日の論語は里仁第四 1～6章です。

子曰く、しいわ里は仁なるを美と為す。り じん び な えら じん お いづく ち え 択びて仁に処らずんば、焉んぞ知とするを得ん。

里とは、一つの家が25戸かたまっただのものをいうという解説があります。

素晴らしい人、仁の体得者がたくさん住んでいる良い里に住むことは、素晴らしいことだ。そういう土地を選んで住む。そういう人でなければ、知者とは言えない。

里を政党で考えます。自民党は仁者の集りか？ 民主党は仁者の集りか？ それぞれの党を仁者の集まりの政党かどうかよく見る。個人を見ると、どの政党を選んだかということで、その人がより仁者に近いかが分かります。立派な人になりたいと思っているのであれば、どこの政党を選ぶかは自ずから明らかになります。ただ、自分自身のエネルギーがどこから出ているか、自分自身が私欲で動いているのか、公憤で動いているのかが肝心です。自分の私欲を満たすがためにどこかの政党に入るのであれば、この文章にはまるっきり該当しません。

自分自身の住む所、職にするものは、仁者が多い環境を選ぶと良いでしょう。そう考えると、自分の家庭は、仁がどれほど広がっているのでしょうか・・・。

子曰く、不仁者は以て久しく約に処るべからず。以て長く楽に処るべからず。仁者は仁に安んじ、知者は仁を利す。

仁を体得していない人は、非常に貧しい所にはいられない。仁を体得していないつまらぬ人は、貧しくなると、うろたえ慌てあがくものだ。何かの拍子で富や地位を手に入れると、すぐに転げ落ちるものだ。つまらない人は貧乏にも我慢できないし、良い地位に就いても、そうそう長くいることは出来ない。・・・だから立派な人になるように努力しようではないか、とお考え下さい。

知者（仁を求める人で、知識が豊富な人）は、仁者がどういう行動をとるか、ある程度分かっているから、仁と一体化したような行動がとれる。仁という考え方を利用する事が出来る。つまり、仁者は、仁に安んじて貧賤を意に介せず、知者は仁を利用して富貴を失わない、ということです。

今回の選挙で考えましょう。全然選挙活動をしないで、誰かに頼まれたから比例に名前を貸したところ受かってしまったという人がいます。前回の小泉旋風の時にも、同じような人がいました。

「知者は仁を利す」で、民主党の中に仁者はいるのかと思って見ると、あまり浮かびません。今現在、自民党と民主党を比べてみると、自民党は不仁者（つまらぬ人）が多かったから、長く富貴にすることが出来なくて今回転落をした。民主党は、仁者がたくさんい

るとは見えませんが、知者（知恵のある人）はいるようですから、仁を目指していけば何とかなっていくのではないかと期待感を感じます。そのように読みました。

翻って、自分は仁者だろうか、不仁者だろうか。或いは知者かと自問自答してみるとよいでしょう。

子曰く、唯 仁者のみ能く人を好し、能く人を悪む。

仁者というものは、心が鏡のようになっている。ですから善し悪しを判断する時に、良いこと・悪いことをそのまま鏡に映し出す。仁者というものはそういうふうな心の高みを持っているから、本当に素晴らしいと思う人には素晴らしいと言えるし、表面だけ綺麗にしても中身がどうにもならない人間については、あなたは駄目だと判断することが出来る。

仁者を目指していくと、善悪の人物評価がストレートに見えてくる。仁者だからこそ、そういう邪な人物を憎むことが出来る。普通の人は、しがらみで愛想を言っておかなければいけないだろうと考えるけれども、本物の仁者はそうはしない。

こういう心の鏡をもっている人が、行政刷新会議の大臣になればよいだろうにと思います。仙谷さんはどうでしょうか。最初は、長妻さんをそのポストに当てることになっていて、仙谷さんは厚生労働大臣のポストが挙がっていました。しかし長妻さんが、とにかく年金問題をやりたいからということで、ゴネ得などと言われたようですが、厚生労働大臣のポストを手に入れたわけです。ですから、どちらが心の鏡があるかと考えると、仙谷さんの方が破邪の鏡を持っているかもしれません。長妻さんはかなり歪んだ鏡ではないかと感じました。

論語の文章も現実の世界に照らし合わせて考えて、今回は政治の世界、民主党と自民党で眺めてみても、色々なものが見えてきます。自分も心の鏡を持てると良いなと思えばよろしいでしょう。

子曰く、苟くも仁に志すときは、悪しきこと無し。

これはとてもホッとさせる文章です。

仁を本気で志すのであれば、その人が悪事を働くことはない。嫌われることはないと思えばよいと思います。

政治家たる者はすべて、仁を志して戴きたいですね。仁とは思いやり・慈しみといった言葉で表現されます。まず、自分を磨くこと。立派な人になることです。ただし、思いやりや慈しみが自分だけの判断基準で間違った方向に進むと、とんでもないことになります。ですから仁者については、学び、研究することが必要だと思えます。

子曰く、富と貴きとは、是れ人の欲する所なり。其の道を以てせざれば之を得とも処らざるなり。貧しきと賤しきとは、是れ人の悪む所なり。其の道を以てせざれば之を得とも去らざるなり。君子は仁を去りて悪くにか名を成さん。君子は終食の間も仁に違ふこと無し。造次にも必ず是に於てし、顛沛にも必ず是に於てす。

財産と地位は、誰でも欲しがるものだ。正しい手段で手に入れたのでなければ、富貴はすぐに去ってしまう。貧乏と賤しい、こういうものは誰でも嫌がるものだ。正しい理由がなくそうだったのであれば、逃れる事はできない。

今回は、選挙という正しい手段でそれぞれが当選をし、落選をする。それで富貴を手に入れる人は手に入れたわけですから、これは良いと思います。自民党の職員は、今回落選者が非常に多かったので、それが分かった時にすぐ集められてお給料カットを通告されたそうです。しかし当選した人達は、2日間だけの在籍にもかかわらず、1か月分の給料を貰いました。それはけしからんという当選者は一人もいないし、マスコミもあまり騒ぎません。どうなっているのでしょうか。法律に従って受け取っているのだから・・・ということのようですが、常識的に考えておかしいでしょう。民間では、あり得ない話です。官公庁に勤めている人だって、そんなことは許されないでしょう。なぜ議員さんだけ、そういうことが可能なのか。一番問題なのは、なぜ自ら返納するという動きが出ないのかと思いました。正しい選挙で議員という地位を得て、法律に従って2日しか働かないけれども1か月分のお給料を貰って当然だと思っているとしたら、おかしい。現実の世界と論語の文章を照らし合わせてみれば、当然、当選者は何らかの動きをすべきではないかと思えます。

君子は四六時中、仁のことを考えている。仁から離れるわけがない。食事中も本人はあまり意識していないけれども、仁に則って食べている。慌ただしい時やつまずいて倒れた時も、仁が頭の中から去らないものだ。

仕事を一所懸命やっている人間は、これと同じだと思います。食事をしている間も、仕事から離れられない。夢の中に仕事が出てきたという人は、結構いるでしょう。仕事一筋の人が隠退した後にコロッと逝くというのは、そこらへんに理由があるような気がします。

民主党も自民党も仁をこれほど考えなくてもよいから、経済を考えて欲しいものです。経世済民で、国民のためになることをするにはどうしたらよいかを考える。新しい大臣達が次々にマスコミに公表しているのを見ると、マニフェストばかりでおかしい。群馬県も八ッ場ダムで話題になっています。八ッ場ダムを中止すれば、保障金を払うよりも工事を終了させた方が金銭的にはるかに少なく済むと思います。一番の基本は、国民のためになること、地元の人のためになることです。地元の住民のためになるという事を判断基準にして考えていけば良いと思うのですが、マニフェストに書いてあるからと問答無用でぱっきり打ち切りとは、腹の中で思っても、そういう表現をしてはいけないと思いました。利害関係者がたくさんいるわけですから。政治家は、その人の話を聞くと何となく心が和らいで真剣に聞こうと思う、そういう話の仕方を工夫しなければいけないと思います。「マニフェストに書いてあるから」という表現は言い過ぎです。後で相当大変な思いをするようになって感じます。

ただ、これからは寝ても覚めても、夢の中にも経世済民が出てこなければいけない。そういう宿命だと思いますので、そのように政治家を観察すればよいと思います。

子曰く、我未だ仁を好む者、不仁を悪む者を見ず。仁を好む者は以て之に尚
ること無し。不仁を悪む者も、其れ仁を為す。不仁なる者をして其の身に加えしめ
ず。能く一日も其の力を仁に用うること有らんか、我未だ力の足らざる者を見ず。
蓋し之有らん。我未だ之を見ざるなり。

仁を好み不仁を憎むような人間を、私はまだ見たことがない。仁を好む者は本当に仁の好むべきことを知っているから、天下に仁に勝るものはないと思う。不仁を憎む者で、実際に不仁者であっても、どこかで良いことをしている。

不仁者でも、不仁の行いをしないで済むようにさせることは出来るし、一日くらいだったら、自分の持っている力を仁のために役立たせることがあるだろう。自分の持っている力を仁に用いようとする時に、力が不足して出来ないという人を私は見た事がない。そういう人もいるだろうが、私は未だ出会ったことがない。

何か良い事をしようと思ったら、だいたいするものだ。仁を好む者や不仁を憎む者が世

の中にもっともっと出てもらいたい、という願いがこの文章の中に入っています。

この部分は池波正太郎を思い出します。彼の作品は、善人でもどこかで少し悪さをしている。悪人でも自分の心の調整をするために、どこかで良いことをしているという内容のものが多い。

民主党と自民党で眺めると、判断基準で、これは仁か・不仁かを色分けしてしていけばよいと思います。鳩山さんが出てきたら、この人は仁か・不仁か？ 岡田さんは仁か・不仁か？ そうやって分けていってみると、片方にどっと寄るような気がします。

心に残る言葉 視・観・察で、鳩山さんを観る

本日の論語の説明の仕上げで、視・観・察を取り上げています。視・観・察で、鳩山さんを観たいと思います。

「子曰く、^{しいわ}其の^そ以^なず^{ところ}所^みを^そ視^よ、^{ところ}其の^み由^そる^{やす}所^{ところ}を^{さつ}観^{さつ}、^{ところ}其の^{さつ}安^{さつ}ん^{さつ}ず^{さつ}る^{さつ}所^{さつ}を^{さつ}察^{さつ}すれば、
^{ひといずく}人^{かく}焉^{ひといずく}ん^{かく}ぞ^{ひといずく}度^{かく}さん^{かく}や、人^{ひといずく}焉^{かく}ん^{かく}ぞ^{ひといずく}度^{かく}さん^{かく}や。」

論語 為政第二 10

人間を観る時に時に、人物の鑑定が3段階あります。視・観・察という順番です。これは安岡正篤先生が、見・観・察という言葉で世の中に広めています。

鳩山首相で観ます。視の段階は、テレビで鳩山さんの表情をよく見てみる。どういうことを言っているか、どういう行動をしたか。言っている事とやっている事が合っているかどうか、自然と見えてきます。言葉と行動をよく見る必要があります。何となくこの人は良いなとか、悪いと思うか、個人的な判断基準で結構ですから、ずっと見ていると何か見えてきます。

その次に、観（動機）です。ハッ場ダムを中止と言った動機は何か。鳩山さんが民主党を結成し、代表になり、内閣総理大臣になった。これは事実として、その動機は何か？ 動機をずっと詰めて考えていく必要がある。こういう事がしたいから政治家になったのだな、そして総理大臣になったのだなと、その動機をずっと見続けて、自分が納得できるかどうかです。

最後に察（本人がホッとしたかどうか）です。ニコツとして「我やったり」と叫ぶような表情が出ている時は、自分が目的どおりに達成できた証拠ですから、本人が満足したところで、その人物を判断すれば良い。それが私的な動機なのか、公的な動機なのか大きく判断の分かれるところです。

そのように一人の人物をずっと見続けていけば、必ず尻尾は掴むし、ボロは見えてくる
とお考え下さい。

論語の科白は、現代の日本、特に政治・経済を見る時に、非常に良い判断基準を次々に
出してくれています。ただ、論語は読み取れないとずっと流れてしまいますから、論語の
中で何か一つ、自分で良いなと思うものを掴んで、常にそれを頭の中で反芻しておく事が
良いと思います。そうすると、何かの会合で急に話を振られて、頭の中が真っ白になって
しまった時に、咄嗟に浮かんできます。何か一つ論語の中から好きな言葉を見つけると、
それがどんどん深くなりますので、是非一つ、これはと思うものを見つけて載きたい。

テーマ 判断の三原則 身の周りのことに注意

本質・大局・歴史でものごとを考える時に、まず身の回りの事、小さな事を気にする習
慣を身につけておくと、判断の三原則が比較的手に入りやすい。

レジメにブータンについての本を2冊ご紹介しておきました。ブータンについては何回
かお話していますが、足るを知る国家がここに 있습니다。どの国でも物質文明ですから、
ものが欲しい。もっと欲しい、もっと欲しい・・・というところから物質文明が進んでい
き、それが行き詰って現代にきています。その中で、ブータンは一つの灯、方向性を示し
てくれていると思います。GNH（国民総幸福量）という考え方を打ち出しています。

そういうものを、これで本当に良いのだろうか考える時に、判断の三原則で、本質は
どうか？ 大局はどうか？ 歴史はどうか？ を考える時に、自分の身の周りの小さなも
のを注意すると良い。

ちなみに私は、キャベツの値段を気にして見えています。今、キャベツの値段はだいたい
200円前後です。所によって150円くらいのスーパーもあります。定点観測でものの値段
を見ていると、値段が変わってきているのに気づきます。

私は以前、デフレが進んで来ていると申し上げましたが、現在は更に加速して、完全に
デフレスパイラルの中にいます。以前は、デフレは大きいもの・重たいもの・歴史のあるも
のがどんどん安くなると言っておりました。日常生活用品がそれほど下がるとは思ってい
ませんでした。それが一つ見誤ったところでした。山の中のコンビニで一袋100円の人参を
見たときには、あれっと思いました。意識して他のものを見て歩くと、どんどん安くなっ
てきています。

スーパーも値下げ合戦がもの凄いですね。そこから見えてくるのは、関係業者を泣かせ
て、人件費を浮かせる。社員を泣かせて、人件費をカットする。どんどんデフレスパイラ

ルの動きをしているなど感じます。5月は物価指数が1.1%下がりましたが、これも過去にない下がり方です。ですからデフレは今後どんどん進みます。マスコミでもデフレスパイラルという言葉が踊っています。そのうちにハイパーインフレという言葉が出始めると思います。以前から、日本はインフレとデフレが共存している国という言い方をしていましたが、それらが表面化してくると思っています。

私は「今年は経済が悪い。来年も悪い。再来年は断崖絶壁を転げ落ちる」と、少なくとも2年くらい前から言っています。一昨日の新聞に堺屋太一さんの本の広告が載っていましたが、「2011年が危ない。再来年に日本の経済は大変動が起きる。」と書いていました。マスコミの言い方は「二番底」と言っていますが、それが2011年だとありましたので、すぐに注文しました。堺屋太一さんが本でそういうことを言い出したという事は、マスコミも追随するだろうと考えます。

経済が悪くなった時に、弱り目に祟り目ですから、鳥の新型インフルエンザ、関東大震災級の大地震と、3つの災難がセットでやって来るのではないかと気になって仕方ありません。相当気をつけて準備をしていないと、再来年は乗り切れなくなるだろうと思っています。

このように、身の周りの小さなものをよく見つめていて、知識をしっかりと持っていると、大きな川の流れが見えてきます。ある日突然、はっと目に映ってくる。大きな川の流れを見たいと思って、大きな川ばかり見ていたのでは見えません。自分の身の周りの小さな出来事をずっと継続して追いかけて見て行くと、ある日突然、大きな川の流れが見えてくる。これは体験をしていくと、納得できると思います。

そういうことを進めていくと、本質・大局・歴史が見えてきます。本質とは、ねらいです。現時点で民主党が政権をとったという本質は何か？ 日本の国にとって、そのねらいは何なのだろうか？ 日本の国という視点で、本質を見るべきだと思います。大局は、色々な人の立場に立つということですから、そういう状況になったことを、それぞれの人がそれぞれの立場でどう受け止めているか、出来る限り推測することです。そうすると、置かれている状況が見えてきます。例えば民主党が政権与党になったけれども、自民党はどう思っているのか、みんなの党は擦り寄ったけれども撥ねられたとか、政党の立場で見る。それから投票者の立場で見る。他の国々から日本がどう見えるのか、その結果としてどういう波紋が広がるか想像してみる。それがなかなかピンと来ない場合は、歴史的にもものを見ていく。日本でかつて、こういった事が起きたかどうか、チェックしてみる。歴史に照らし合わせて、判断していく。

本質・大局・歴史の三点から、今の民主党はどうだろうかと考えた場合に、先ほどの論語の文章で解説したような考え方が、自然と出てきます。一番肝心なことは、自分自身の心の中に哲学があるかないかです。哲学があると、それに照らし合わせながら判断の三原則を活用することが出来るし、論語の文章も見erようになります。

時事問題

民主党と自民党、どちらが生き残るか、どちらが主要な政党になるか、というテーマで考えた時、日本の未来、国家としてあるべき姿・ビジョンを打ち出す政党が生き残ると思います。今、やっていることは全部、目の前の話です。目先の議論をやっている政党は、すぐに飽きられる。できれば100年後のあるべき姿を出して欲しいと思います。もしくは50年後、30年後のあるべき姿を出して欲しい。100日ルール、いわゆるハネムーン期間は穏やかに見守ってあげようという事で、マスコミでも暗黙の了解になっているようですが、それが終わった後はどうなるのでしょうか。叩かれる人は叩かれるでしょう。失言が結構出ると思います。

亀井金融大臣のモラトリアム法案はまさに、論語の「一知半解」です。「一知半解」とは、あまり物事を知らないで、自分が思った事を思ったままに喋ってしまうことです。中小企業が資金繰りに困っているのだから、3年間は元金を払わないでよいという事を打ち出しているわけです。今の説明では、金利は払って元利は3年間返済猶予をすると言っています。どこの国でもデフォルトをしたらお終いですが、亀井さんはそれを、ぎりぎりのところで踏み止まったのです。

自分の思いついた事を、よく調べもしないで、そのままやってしまうと危ない。先ほど言いました八ッ場ダムの工事中止も、マニフェストに書いてあるからと、すぐに実行すると危ないと思います。とんでもない事が次々に起きてくると思っています。

日本の未来を考えるには、国家戦略室の菅さんの仕事になると思いますが、菅さんの出番は、年が明けてからの方が良からうという気がします。それよりは仙石大臣がどれだけの問題を抉り出すかだと思います。今日の新聞では3兆円とか書いてありましたが、7兆円欲しいわけです。しぼり方です。

私が気にしているのは小さなことですから、自分達の給料を日割りにして2日分だけで結構です、とやった政党を信用しますね。自分の身を正すというところをどちらの政党もやらない。これが不思議です。

そういうふうに関後のことを考えていくと、全部を見るわけにはいきませんから、民主

党の誰か一人、自民党の誰か一人を、ずっと半年くらい追いかけてみればよいと思います。発言にブレが出るかどうか。言っている事とやっている事が違うかどうか。半年追いかければだいたい見えてきます。視・観・察です。そうすると、その人の動機も見えてきます。その動機には、党全体の考え方が色濃く反映されています。そういうものの見方をしていくとよろしいでしょう。最後に補正予算、次の予算をどう処理するか。自分の追いかけている大臣なら大臣が、それでどう満足をするかを見る。半年見続ければ、ある程度の民主党の行く末、自民党の行く末が見えてきます。

歴史に学ぶ 山田方谷の改革

一つのテーマで物事を追いかけていくと、先ほど申しました3つの危ない心配事（経済・新型インフルエンザ・地震）に対しての動きが、自分なりに納得がいくと思います。ただ、自分の判断基準だけで見ていくと怖いから、何か過去の歴史に学ぶと良いと思います。

今の時代に一番良いものは、山田方谷だと思っています。山田方谷が行なった事例を再検証してみると良いでしょう。

山田方谷は、富国強兵によって領民の生活を安定させるという政策を行なっています。山田方谷は財政改革ばかりにスポットが当たっていますが、私が気になるのは、軍事面です。軍制改革がかなり上位に来ると思います。里正隊というものを作り、その下に八大隊を作りました。洋式の銃をたくさん買って、農民を訓練した農兵組織です。それが普段は盗賊の見回りもしましたから、盗賊が減り治安が良くなりました。又、屯田兵の考え方で、武士をしかるべき要地に配置して、そこでお百姓をやらせるという土着制度を進めました。下級武士は皆、食べられませんから、農地を与えて自分たちで食べられるようにするというものですが、最大の目的は、敵から攻められた時に攻撃をするための兵力を、藩内全域にわたって巡らせたわけです。

国を富ませ、兵を強くして、領民が食べられるようにしていく。そのためには財政を安定させなければならぬということで、財政改革を進めたわけです。その為に教育改革も必要ですから、それも進める。教育改革・民政改革・軍事改革、それらの上に財政改革が成り立ったと思っています。その一番ベースにあるのは、経世済民です。

現代の民主党のとるべき事は何かと考えた時に、山田方谷が行なった改革と現代のものと照らし合わせてみると、即、良い答えが出てくると思います。

今は非常に良い時代に入ったと思います。我々は今の時代がどうなのか、これから更に

良くなるのか悪くなるのかを検証し、実際に自分なりの対策を打っていく時の判断基準を、中斎塾フォーラムのなかで今後もどんどん出していこうと思っています。ご自分の波長にあったものを、是非取り入れて戴くと良いと思います。

本日の講話はこれで終了致します。有難うございました。